

ることに対し、本植物は葉鞘に密に細毛がある。それで私はこれをハコネシノの新変種として認めることにしたい。

このササは当時東北大学の学生であった宇高奈保美さんが同大学理学部附属植物園(天然記念物青葉山)で1975年12月にはじめて発見したものである。私自身の観察採集の際には、園長飯泉茂教授の好意により、同園の方々や宇高さんから案内その他多大の便宜をはかっていただいた。とくに記して感謝の意を表したい。

○ミジンコウキクサの花(浜島繁隆) Shigetaka HAMASHIMA: On the flower of *Wolffia arrhiza*

ミジンコウキクサ *Wolffia arrhiza* の花は、種子植物中最小の花として知られている。しかし、目立たないため、開花の様子についての観察はほとんどされていない。名古屋近郊に帰化している本種について、開花の様子を1977年8月に観察したのでその結果を報告する。当地で、花は7月下旬～10月にかけて、少数の個体で見られる程度である。

花は最初、めしべの柱頭が葉状体中央部の凹部より頭を出す(Fig. b)。その後、柱頭先端に球状の液滴が分泌される(Fig. c)。このような現象は、*Wolffiella lingulata* の花でも観察されている(H. L. Mason 1969)。葉状体の外に頭を出した柱頭は、ほぼ一日程で次第に縮し、凹部の中にかくれてしまう(Fig. d)。その頃になると、花糸が伸びて、おしべのやくが外にあらわれてくる。花糸が伸びきったところで開やくして花粉を出す(Fig. e)。このようにミジンコウキクサの花は、雌ずい先熟花 protogynous flower であることがわかった。(名古屋市高蔵高校)

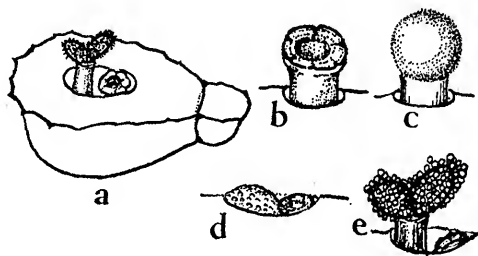


Fig. *Wolffia arrhiza*. a, the flowers arising from cavity, $\times 35$. b-e, development of flower, $\times 60$. b, stigma; c, showing the stigma with a spherical globule of liquid; d, the stigma embedded in cavity; e, showing the anther protruding beyond the stigma.